

和 6 年度 新入ひまわりこども園事業計画書

1 幼保連携型認定こども園の運営

- (1) 所在地 福岡県直方市上新入 2051-1
 (2) 定員 1号 15名 2号・3号 145名 合計160名
 令和6年度4月入所児童数(予定)・・・1号

	3歳	4歳	5歳	計
市内	5	4	6	15
市外	0	0	0	0
合計	5	4	6	15

令和6年度4月入所児童数(予定)・・・2号、3号認定子ども

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
市内入所児童数	1	15	25	25	27	26	119
新規児童数	13	9	2	2	1	1	29
合計	15	24	27	27	28	27	149

2 教育・保育目標～育ってほしい子どもの姿～

- ・生きる力のある子ども
 丈夫な子・・・命を大切に、元気な心と体を持つ子
 優しい子・・・大人から愛されている自信を持ち、自分も友達も大切にできる子
 意欲的な子・・・いろんな体験を通して、何にでも挑戦しようとする子
 考える子・・・大人の指示にたよらず、自分で判断し思ったことを表現する子
 また、自分の意見も言え、友達の意見も聴ける子

- (1) 教育・保育時間 月曜日～土曜日 7:00～18:00
 内(9:00～15:00を教育時間とする)

○特別保育

延長保育 18:00～19:00
 ※短時間保育は7:00～8:30、16:30～19:00
 が延長保育となる。

預かり保育 16:00～18:00(1号のみ)
 ※月～土曜日に実施

○子育て支援事業

地域子育て支援事業「くれよんくらぶ」(月3～4回程度)
 子育て相談事業

- (2) 教育・保育内容
 別添、入園のしおり参照

3 職員名簿及び保育担当者

別添職員名簿参照

なお、大野小児科内科医院大野祥一郎医師及びたかはし歯科クリニック医院高橋美貴子歯科医師を嘱託医とし、安永哲章薬剤師を学校薬剤師とする。

4 資金計画

別添、予算内訳表及び予算書のとおり

5 行事計画

6 令和6年度の重点目標

1) 幼保連携型認定こども園として

幼保連携型認定こども園として、また、念願であった新園舎も完成した中で、8年目を迎える令和6年度。さらなる飛躍の年にしたいと考えている。直方市も認定こども園が増え、少子化の進行で今後さらに園児確保が熾烈になってく中、新入ひまわりこども園としての魅力を発揮しながら、運営の戦略を構築していかなければならないと思う。

2) 教育・保育の見直しと質の向上

・食育の向上、推進

食育については、栄養管理、アレルギー対策はかなり充実してきたが、献立の工夫や見直しを積極的にしながら給食の質の向上をめざしたい。

また、新園舎建て替えで実現する3、4、5歳児の米飯提供を開始し、より保護者が利用しやすいこども園をめざしていきたい。

・教育・保育の向上をめざして

教育・保育の向上は園が常に心掛ける事項であり、また、少子化が進む中、経営を安定させる最強の武器になると考える。昨年職員で取り組んだ『こども主体の保育』をさらに深め、職員の意識を高めたい。教育・保育の質を上げ、保護者の信頼を得ていくことは、これからの厳しい社会状況を考えていく上で不可欠である。職員一丸となって質の向上の意識を高めていかなければならない。

3) 保育教諭等職員の確保と働き方について

養成校の実習生からの新任採用がうまくいかず、1名の採用にとどまった。が、現在3名の産休育休の職員が徐々に復帰してくるので、保育の安定を図りながら充実した組織作りをしていきたい。

また、60歳定年に該当する職員がこれから続くこともあり、子育て世代の働き方も含め、雇用形態を社会の移り変わりに合わせながら職員確保も図っていきたい。

同時に高齢の職員がここ数年で退職することもふまえ、保育技術や知識の修得や維持および向上に努めていきたい。

4) 保護者への対応

昨年保護者アンケートをとり、総合評価で約9割の保護者が満足、やや満足という回答をしてくださった。

ほとんどの行事がコロナ禍以前にもどったので、アンケートで得た要望を考慮しながら園行事をこども、保護者、職員が満足いくものにしていきたい。

また、職員の不適切な言動を指摘された意見を重く受け止め、人権に配慮した保育を行い、保育教諭、看護師、栄養士、調理員等、それぞれの職務の専門性が高められるよう努力していきたい。

5) 法人の方向性について

新園舎建替えが終わり ICT 化を含め事務全般の見直しを行い、効率的に運営できるシステムを構築していく。

さらに、少子化や制度面の変化に対応できるよう将来ビジョンを構築し、それに基づいて園運営を変革する礎を作成していく。